

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣研究報告書

2012年 10月 21日

派遣者氏名（専門分野）	林 葉子 （ 女性史 ）
-------------	--------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	廃娼運動の日英関係史についての基礎的研究 ーイギリスのWCTUおよび救世軍の廃娼運動関連の史料調査を中心にー
-------	---

派遣期間

2012年 7月 20日 ～ 2012年 9月 20日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	イギリス	リヴァプール	The University of Liverpool Library	
		マンチェスター	People's History Museum	
		ダラム	Josephine Butler College	
		グラスゴー	Glasgow Women's Library	
		カーディフ	University of Cardiff	
		ロンドン	The Women's Library (London Metropolitan University)	
			The Salvation Army International Heritage Centre	
			Wellcome Library	
			The British Library	

派遣先で実施した研究内容

<p>本研究では、以下の4点についての資料の調査と収集を行った。</p> <p>①イギリスの廃娼運動（公娼制度廃止運動）と Woman's Christian Temperance Union (WCTU)、British Women's Temperance Association (BWTA)、および救世軍との関係</p> <p>②BWTA とイギリスの救世軍の出版物に見られる日本観</p> <p>③イギリスの救世軍と日本の救世軍の交流史</p> <p>④国際連盟を中心とする国際的な廃娼運動の流れにおけるイギリスの廃娼運動団体の位置づけ</p> <p>上記①に関しては、The Women's Library (London Metropolitan University)と The British Library で資料収集を行った。また、WCTU の役割について調査・分析する際には、禁酒運動と廃娼運動の関係を把握することが必須なので、People's History Museum で開催されていた企画展“Demon Drink? Temperance and the Working Class”を見学した。</p>
--

上記②に関しては、BWTA 関連資料を The British Library で、救世軍の資料を The Salvation Army International Heritage Centre で収集した。

上記③については、The Salvation Army International Heritage Centre で調査した。

上記④に関しては、イギリスの廃娼運動団体の基礎資料を The University of Liverpool Library (Josephine Butler Collection)、Glasgow Women's Library (Josephine Butler Society 関連資料)で収集し、その社会的背景についての資料を Wellcome Library (性病法関連資料)で収集した。また、それらの資料と The British Library および The Women's Library で得た国際連盟関連資料との照らし合わせを行った。

また、カーディフ大学で開催されたWomen's History Networkの年次大会 “Women, State and Nation: Creating Gendered Identities”に参加して、イギリスの女性史研究における近年の動向について情報収集を行った。

### 研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

研究計画の段階では、廃娼運動の日英関係史に焦点を絞り、日本の廃娼運動団体と関わりの深い WCTU や救世軍の関係資料を中心とする調査を行う予定だった。しかし、イギリスの廃娼運動関連の基礎資料を閲覧して調査を進めていくうちに、イギリスの廃娼運動が、後に国際連盟を中心として展開されることになる国際的な廃娼運動の流れの中で果たした役割の大きさに気づき、廃娼運動の日英関係史についても、より広い国際的な廃娼運動の流れの中に位置づけるべきだと考えるようになった。

WCTU (BWTA) および救世軍関係資料については、1890 年代から 1910 年頃までの資料を収集した。また、それらの資料調査と並行して、イギリス国内の廃娼運動の基礎資料について調査し、日本では手に入れることのできなかつた資料を得ることができた。そして、この調査の中で、日本に関わる文献や雑誌記事を数多く見つけることができた。

今回の資料調査で明らかになったことは、20 世紀初頭の時期に、イギリスにおいて日本女性に対する強い関心が寄せられ、数多く報じられていたという事実である。また、そのような日本女性に対する関心は、後の国際的な廃娼運動における（日本を含む）アジア女性へのまなざしの在り方にも受け継がれていったのではないかと考えられる。

### 派遣後の研究発表の予定

イギリスの IFRWH (International Federation for Research in Women's History)、または WHN (Women's History Network)で研究発表ができるよう、準備を進めたい。